

2016 年度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

---

*Tohoku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

本大学院の目的はグローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。この目的を達成していくために第一義的に重要なことは、学生に対する教育である。我々は、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。我々は、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後に授業アンケートを実施し、その分析を行っている。なお、本会計大学院は、2013 年度において会計大学院評価機構による認証評価を受けたが、そこでは本会計大学院が実施しているアンケートについて高い評価を得ている。また、本会計大学院では 2015 年度より、新カリキュラムを開始し、これまでとは大きく異なる科目枠組みでの講義をスタートした。この改編の目的は、学生にとってわかりやすく、そして体系的な履修をすることを促すことにある。

過年度分のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院の WEB サイト (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2016b.html>) で公開している。我々の意図は、東北大学会計大学院への入学希望者、そして将来我々が教育した学生を受け入れていただくことになる監査法人・会計事務所・企業・官庁等の皆様に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。我々は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院へ関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。

我々は、授業に関するアンケートを在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、アンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供すべく努力していきたいと考えている。本報告を含めて、会計大学院について、様々なご意見をいただければ幸いである。

2016 年 10 月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 2. 実施方法

本報告は、2016年度前期の「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末付録1参照）に関する、集計値である。アンケートは講義中に配布・回収を行い、延べ人数にして195名の回答を得た。アンケートは無記名であり、受講生が5人以上のすべての講義と、受講生が5人未満で担当教員が希望する講義について実施した。

今回の報告の目的は、本会計大学院における教育の現状を学生・教員へタイムリーに報告することであり、アンケート質問項目ごとの分析は行わず、アンケートの集計結果のみを示すこととし、各項目の詳細な分析については、後期に実施するアンケートの報告書において報告する（2017年3月頃の予定）。

また、本会計大学院の教育内容・教育方法全般に関する調査および分析（カリキュラム再編を含む）については、今年度後期に実施するアンケートにおいて実施したいと考えている。ただし、今回のアンケートの結果および学生から寄せられた意見の中で、特に重要な点については、若干の検討をすることとする。なお、科目毎のアンケートの集計結果（自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されており、ワークショップ委員会では、これが後期以降の講義内容の充実に資することを期待している。

### 3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

#### 3.1. アンケートの実施状況

2016年度前期における開講講義数は47科目であり、そのうち履修者が5名以上の講義と、教員がアンケートの実施を申し出た科目の、合計20科目についてアンケートが実施された。アンケート実施科目の履修者とアンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
財務会計1	23	21
財務会計3	15	14
簿記1	22	16
簿記3	8	8
原価計算1	25	21
原価計算3	7	7
監査1	20	15
会計職業倫理	15	12
IT監査	8	7
事例研究(監査制度)	6	6
企業法1	8	7
金融行政1	12	12
法人税法1	6	6
国際会計実務	7	7
IFRS2	11	9
ビジネス・コミュニケーション1	9	8
ビジネス・コミュニケーション2	4	4
ミクロ経済学	8	6
所得税法	4	4
経営管理	5	5
合計	223	195

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、延べ履修者数223名に対して195名から回答を得た。アンケートの回収率は87.44%と高い水準にあり、今回のアンケート結果は会計大学院学生の総意を反映しているものと考えられる。

なお、質問項目21は科目担当教員が独自に行う質問であり、アンケートの集計には含めていない。

### 3.2. アンケートに関する基本統計量

各質問の選択肢に付与された数値は、質問1を除き、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。併せて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については付録2を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	61	169	4	15	16	47	124	142	136	135	143	118	139	103	108	16
4	108	8	5	4	11	97	49	36	45	33	29	43	38	41	56	32
3	22	3	11	12	11	42	21	11	8	23	20	29	15	32	17	34
2	1	4	22	22	37	7	0	2	4	1	0	1	1	5	9	92
1	3	7	68	75	59	2	1	2	2	3	3	4	2	13	1	18
0	0	-	85	66	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
合計	195	191	195	194	194	195	195	193	195	195	195	195	195	194	191	229
平均値	4.14	4.72	0.95	1.27	1.49	3.92	4.51	4.63	4.58	4.52	4.58	4.38	4.59	4.11	4.37	2.24
中央値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
最頻値	4	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
標準偏差	0.75	1.06	1.15	1.43	1.52	0.83	0.73	0.73	0.76	0.84	0.80	0.90	0.74	1.18	0.97	1.42

表2：アンケートの基本統計量

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。質問16の資格は複数回答が可能となっているが、相関係数の計算上、複数回答については複数の数値を合計した値を用いている。例えば、2と3の資格を持つ回答者は資格の値を5として相関係数を計算している。なお、表2の計算の際には、資格についてこのような合計はしていない。

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.186	1														
3 予習	0.008	-0.036	1													
4 復習	0.041	-0.064	0.478	1												
5 宿題	0.224	-0.239	0.456	0.495	1											
6 理解	0.059	-0.041	0.076	0.139	0.135	1										
7 難易度	0.081	-0.039	0.044	0.041	0.103	0.449	1									
8 教員準備	0.126	-0.083	0.096	0.158	0.193	0.031	0.371	1								
9 プレゼン	0.042	-0.012	0.123	0.183	0.135	0.162	0.257	0.572	1							
10 教材	0.069	-0.130	0.150	0.167	0.180	0.183	0.432	0.563	0.494	1						
11 評価方法	0.083	-0.066	-0.040	-0.016	0.064	0.263	0.458	0.453	0.421	0.662	1					
12 シラバス	0.055	-0.031	0.054	0.124	0.208	0.335	0.318	0.339	0.370	0.450	0.509	1				
13 教員評価	0.058	0.012	0.120	0.199	0.220	0.208	0.434	0.648	0.606	0.595	0.576	0.472	1			
14 対試験	0.045	-0.097	0.017	0.220	0.083	0.258	0.414	0.256	0.267	0.342	0.325	0.255	0.342	1		
15 キャリア	-0.005	0.283	0.111	0.075	0.069	0.179	0.340	0.330	0.336	0.317	0.326	0.231	0.553	0.210	1	
16 資格	-0.028	0.134	-0.101	-0.082	-0.094	0.118	0.042	-0.118	-0.040	-0.075	-0.141	-0.250	-0.091	0.011	0.011	1

表3：質問項目間の相関関係

上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のWEBサイト (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2016b.html>) を参照されたい。

#### 4. まとめと自由記入欄に対する回答

今回のアンケートは 9 割近い高い回収率となっており、学生全体の総意をかなり反映しているものと考えられる。

基本統計量の分析結果から（表 2 および付録 2）、ほとんどの学生が 90% 以上授業に出席しているものの、授業の予習や復習に当てる時間が少ない傾向にあることがわかる。具体的には、予習に当てる時間が 1 時間未満の学生が 43.59%、復習に当てる時間が 1 時間未満の学生が 34.02% となっている。予習や復習に要する時間は授業の難易度やその運営方針に依存するものの、予習や復習の時間をもう少し確保する必要があるといえる。そのためにも、予習や復習に一定の時間が必要となるような授業設計が教員には求められる。また、相関係数の結果（表 3）は、教員の評価（質問 13）が授業の準備（質問 8）やプレゼン技法（質問 9）と高い相関関係を有することを示している。なお、授業の準備は予習や復習の時間とも若干相関しており、予習や復習を念頭においた授業の設計は教員の評価の観点からも求められることが示唆される。また、自由記入欄においては（具体的な記述は掲載していない）、教員の幅広い知見からの講義、講義中のディスカッションや確認クイズの存在、教員の十分な講義準備等に対して高い評価が与えられている。

これらの分析結果はいずれも例年と同様の傾向を示している。優れた教育方法や検討すべき問題点などを教員間で共有し、継続的に講義内容を改善する更なる取り組みが必要であるといえる。

付録1：「会計大学院の授業に関するアンケート」（2016年度前期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (4) 公認会計士コース（1年） (3) 会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この授業にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この授業が基礎、展開、実践・応用科目 <sup>(注)</sup> の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

(注) 実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この授業のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	授業を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他 (0) 無し	複数回答可能です。複数回答をするときはマークシートの16～20の欄に1つずつマークして下さい。(1)については自由記入欄に具体的に記入して下さい。
21	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
22	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

付録2：アンケート集計結果（2016年度前期）

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
質問1 あなたの専攻・コース (学年)について、該 当するものを選んで下 さい。	(5) 公認会計士コース(2年)	61	31.28%	質問9 教員の説明や声量な ど、授業でのプレゼン テーションは良好でし たか。	(5) 十分	136	69.74%
	(4) 公認会計士コース(1年)	108	55.38%		(4) ほぼ十分	45	23.08%
	(3) 会計リサーチコース	22	11.28%		(3) どちらともいえない	8	4.10%
	(2) 経済経営学専攻	1	0.51%		(2) やや不十分	4	2.05%
	(1) 経済学部	3	1.54%		(1) 不十分	2	1.03%
	(0) その他	0	0.00%		合計	195	100.00%
質問2 この授業にどのくらい 出席しましたか。	合計	195	100.00%	質問10 テキスト・参考書ある いはプリント等は適切 でしたか。	(5) 適切	135	69.23%
	(5) 90%以上	169	88.48%		(4) ほぼ適切	33	16.92%
	(4) 89-70%	8	4.19%		(3) どちらともいえない	23	11.79%
	(3) 69-50%	3	1.57%		(2) やや不適切	1	0.51%
	(2) 49-20%	4	2.09%		(1) 不適切	3	1.54%
	(1) 20%未満	7	3.66%		合計	195	100.00%
質問3 この授業の予習に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	合計	195	100.00%	質問11 この授業の成績評価の 方法は適切であると思 いますか。	(5) 適切	143	73.33%
	(5) 5時間以上	4	2.05%		(4) ほぼ適切	29	14.87%
	(4) 4-5時間	5	2.56%		(3) どちらともいえない	20	10.26%
	(3) 3-4時間	11	5.64%		(2) やや不適切	0	0.00%
	(2) 2-3時間	22	11.28%		(1) 不適切	3	1.54%
	(1) 1-2時間	68	34.87%		合計	195	100.00%
質問4 この授業の復習に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	(0) 1時間未満	85	43.59%	質問12 この授業のシラバスは 授業を理解する上で役 に立ちましたか。	(5) 役に立った	118	60.51%
	合計	195	100.00%		(4) ままあ役に立った	43	22.05%
	(5) 5時間以上	15	7.73%		(3) どちらともいえない	29	14.87%
	(4) 4-5時間	4	2.06%		(2) あまり役に立たなかった	1	0.51%
	(3) 3-4時間	12	6.19%		(1) 役に立たなかった	4	2.05%
	(2) 2-3時間	22	11.34%		合計	195	100.00%
質問5 この授業の宿題に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	(1) 1-2時間	75	38.66%	質問13 総合的に見て、この授 業における教員のバ フォーマンスをどう評 価しますか。	(5) 評価できる	139	71.28%
	(0) 1時間未満	66	34.02%		(4) ままあ評価できる	38	19.49%
	合計	194	100.00%		(3) どちらともいえない	15	7.69%
	(5) 5時間以上	16	8.25%		(2) あまり評価できない	1	0.51%
	(4) 4-5時間	11	5.67%		(1) 評価できない	2	1.03%
	(3) 3-4時間	11	5.67%		合計	195	100.00%
質問6 この授業の内容をどの 程度理解できたと思 いますか。	(2) 2-3時間	37	19.07%	質問14 この授業は公認会計士 試験を受験する上で役 立つと思いますか。	(5) 役立つ	103	53.09%
	(1) 1-2時間	59	30.41%		(4) ままあ役に立つ	41	21.13%
	(0) 1時間未満	60	30.93%		(3) どちらともいえない	32	16.49%
	合計	194	100.00%		(2) あまり役に立たない	5	2.58%
	(5) 理解できた	47	24.10%		(1) 役に立たない	13	6.70%
	(4) ほぼ理解できた	97	49.74%		合計	194	100.00%
質問7 この授業の難易度は会 計大学院の講義として 適切だと思いますか。	(3) どちらともいえない	42	21.54%	質問15 この授業は、将来の キャリアにおいて役立 つと思いますか。	(5) 役立つ	108	56.54%
	(2) あまり理解できなかった	7	3.59%		(4) ままあ役に立つ	56	29.32%
	(1) 理解できなかった	2	1.03%		(3) どちらともいえない	17	8.90%
	合計	195	100.00%		(2) あまり役に立たない	9	4.71%
	(5) 適切	124	63.59%		(1) 役に立たない	1	0.52%
	(4) ほぼ適切	49	25.13%		合計	191	100.00%
質問8 教員のこの授業に対す る準備は十分でした か。	(3) どちらともいえない	21	10.77%	質問16 あなたが既に合格して いる資格試験等につい て、該当するものを選 んで下さい。	(5) 税理士会計科目	15	8.15%
	(2) やや不適切	0	0.00%		(4) 公認会計士短答式	23	12.50%
	(1) 不適切	1	0.51%		(3) 日商簿記1級	28	15.22%
	合計	195	100.00%		(2) 日商簿記2級	75	40.76%
	(5) 十分	142	73.58%		(1) その他	6	3.26%
	(4) ほぼ十分	36	18.65%		(0) 無し	37	20.11%
	(3) どちらともいえない	11	5.70%	合計	184	100.00%	
	(2) やや不十分	2	1.04%				
	(1) 不十分	2	1.04%				
	合計	193	100.00%				

2016 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	米谷 健司
委員	青木 雅明
委員	高橋 美穂子
委員	松田 康弘

会計大学院アンケート実施報告書 2016 年度前期

2016 年 10 月 4 日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会